

## ヒメカワゲラ属の同定

大見川上流(筏場)の川に棲む水生生物の写真を撮り続けて10年近くになる。毎回同じ種類が網に入るのを見ただけで放すものも多いが、いつの間にか見なくなった種類や一度だけしか見てない種類、初めての種類の出現(今まで見つからなかったただけだが)など退屈はしない。

殺生をしない、ストレスを与えないことをモットーとしているので、辛抱強く待つシャッターを押すのでその間の姿勢に疲れたりもする。

以前撮った写真の中に、アミカワゲラ科のコグサヒメカワゲラ属とヒメカワゲラ属がファイルされている。この2属は似ているのだが今年2月に写真に撮ったものはどちらともつかない。種類のハッキリしたものを残したいので素人ながら同定を試みることにした。

2008年6月に撮ったコグサヒメカワゲラ属の写真(左)と2015年2月の写真(右)を下に示す。



コグサヒメカワゲラは背中中の小判状の斑紋がきめてとなるが、右側今年のものは小判状の斑紋とは言いがたい。頭部の斑紋も異なっているようだが同種でも個体差があるので判別の材料としては使えないようだ。エルモンヒラタカゲロウとタニヒラタカゲロウ(見分けが難しい)のように羽化時期で判断材料にもなったりするが両種とも羽化時期は近い。従って、検索表から下唇基部にあるミクロン単位の指状えらの有無を調べることにした。この指状えらはヒメカワゲラ属特有のものであると載っている。結果、別種のヒメカワゲラ属となった。赤丸の中の一対のえらがヒメカワゲラ属の証拠となる。

